ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なび

8月号
vol. 102

「青空のもとできらきら光る、商店街のかざり」
西成区梅南1丁目周辺にて撮影

巻頭特集

にしなりの小遺産
こいさん

巻頭特集

にしなりの小遺産 こいさん

にしなりのまちの遺産を発掘しにいきます。歴史や地域が育てたのは建築物や遺跡などだけではありません。人も大切な遺産なのです。わたしたちはそれを小遺産（こいさん）と呼び、まちの小遺産を発掘しつづけます。

こいさんプロジェクト：若松司／西田吉志／佐々木敏明

こいさん❷ 西川 喜美子さん

西川さんは1962（昭和37）年西成区北津守に生まれる。結婚を機に区外へ転居するも、離婚して帰郷。シングルマザーとして人生の再出発のときに、西成支部の解放運動と出会う。現在は（社福）ヒューマンライツ福祉協会の職員として、ソーシャルファーム「ヒューマンアグリ」事業と釜ヶ崎にある障害者就労継続支援事業所「ヒューマンワークステーション」に携わっている。

西成障害者会館開所式（１９９３年）

シングルマザーの就職活動

西成区北津守に生まれ育った西川喜美子さんは、多くの女性がそうであるように結婚を機に地元を離れていった。しかしほどなくして北津守の実家に帰ってこられたそうである。西川さんが話してくれたのは、離婚して西成に帰ってきた頃に苦労されたことだった。子ども3人を抱えるシングルマザーだった西川さんは、お母さんと同居してなんとか生活をやりくりしていた。浪速区の食品会社でパートとして働き、給料は4～6万円／月程度だったという。西川さんは当時29歳。日々の忙しさに追われながらも、お母さんに「ちゃんとした仕事に就き！」とはっぱをかけられて面接を受けに行ったのが、現在の仕事に就くきっかけとなった。

応募したのは、1993年7月に開設した西成障害者会館（以下、「障館」）のスタッフ。それまで福祉関係の仕事に一切関わったことのなかった西川さんだったが、お母さんの仕事場の関係ですすめられたのだそうだ。

緊張しながら臨んだ面接会場では、やや強もての面々が次々と質問をしてくる。仕事をやっていく覚悟は持ち合わせていたが、それだけではなかなか思うように仕事できない。ひとり親家庭の親御さんと同様に、西川さんも小さな子どもを家において仕事にいくことには、少なからぬ不安を感じていたのである。

そんな西川さんの悩みに応えたのが、部落解放同盟西成支部女性部だった。辻さんや下川さんをはじめ女性部の協力があり、北津守の保育所に子どもを預けることができ、ようやく安心して働きに出られた。そのときは「ほんまにありがたかっ

た！（解放）運動の大切さを実感した」と西川さんは述懐する。

シングルマザーという西川さんの境遇を支える意識は、障館のスタッフにもあった。保育所に入所できたものの、当時は病児保育がなかった。そのため職場に連れて行ったこともたびたびだったが、障館の職員はみんなで子どもを可愛がってくれた。そうした職場環境・職員の心意気にも励まされたそうである。

「仕事は楽しかった！」排泄の世話やお風呂介助など「汚い」「きつい」と敬遠されることが多い仕事にも抵抗なく取り組めた。それよりも西川さんにとっては利用者の笑顔が励みになった。

障がい者福祉のフロンティアを往く

現在、障館は地元の社会福祉法人ヒューマンライツ福祉協会（※）の事業に位置づけられているが、じつは障館こそが社会福祉法人設立のきっかけだった。1993年6月、障がい者の自立拠点として出発した障館は、障がい者福祉のフロンティアを開拓していくような事業を展開していく。同年10月、当時障がい者向けとしてはあまり一般的ではなかった食事サービスを実施。調理スタッフは、橋本フタエさんをはじめとする地元・北津守のボランティアの人たちで、その協力が地域ぐるみで取り組む力となった。

また、1995年ごろから同和対策事業の一環で精神障がい者に一時金が出るようになり、施設の利用が増えてきた。しかし精神障がい者は障害者手帳の対象外。スタッフは手帳がなくても障館を利用してもらえるような工夫をいろいろ考えた。送迎や風呂の介助、食事提供などのサービスのあり方や料金設定を一から考えるのはとても大変だったけれども、スタッフがみんな元気で明るかったので、互いに支え合いながらなんとかやっていけた。

そんな取り組みが評価され、障館で受けた相談が増えてくると、西川さんをはじめスタッフは、利用者の生活全般が問題を抱えていることに気づきはじめる。精神障がい者に対する福祉制度は現状に追いついていない。しかし、目の前に困っている人がたくさんいて、彼らのニーズに応えるサービスの提供が急務だと思われた。現場に立つ西川さんならではの着眼だ。そして1998年、相談に来ていた精神障がい者20名を対象にニーズ調査を行った。

障害者の人権を守る会結成総会（1993年）

障害者会館

「関わったら、ほっとかない」

ニーズ調査の目的は精神障がいをもつ利用者へのサービスメニューの開発だったが、その必要性を理解してもらうのには少々苦労した。むしろ、「どんな仕事が必要なの？」と聞かれるほうが多かった。西川さんは「服薬の見守りとかいろいろあるが、なかでも話し相手になることがとても大切。定期的に他人と話すことで、利用者の生活が安定してくる」と答えたが、福祉の専門家でさえやや反応が鈍かったそうである。

訪問調査では、精神障がい者の家庭での生活状態に向き合わざるをえなくなった。西川さんが出会ったあるケースでは、両親が監視のために部屋の一室に利用者を閉じ込め、鎖と南京錠で施錠していた。「これはどうにかしなくてはいけない！」と強く思った西川さんは、ご両親との信頼関係を築くことから始めた。頻繁に家庭に訪問してもらうまでに、2～3年かかった。このケースの方は今も、会うとあいさつをしてくれるそうである。

「自慢やないけど、ヒューマンライツ（福祉協会）はすごいと思う。関わったらほっとかない。」調査してニーズを掘り起こし、事業に結実させていく。フロンティアを開拓していくような仕事が、西川さんの性に合っているようだ。「ワハハ！」と闊達な笑い声で少々の困難なら軽く吹き飛ばしてしまうパワフルな「こいさん」の姿をみた。

※（社福）ヒューマンライツ福祉協会：1995年12月に設立。西川さんが勤務していた西成障害者会館を前身とする、地元の社会運動のなかから生まれた社会福祉法人。障がい者、および高齢者率の高い西成では、地域を支える大きな柱のひとつになっている。

「障害者」の表記については議論のあるところですが、西成障害者会館を指す場合は「障害者」と表記し、人を指す場合は「障がい者」と表記することにしました。

文責：若松

き~んこ~ん か~んこ~ん

こどもたちを育むには、学校と家庭に加え地域の役割がとても大切です。ただ、学校がどんなことをしているのか知っている人は案外少ないのでは？ということで、これから学校の様々な出来事や取り組みをお知らせしていきます！

2時間目：北津守小学校

こどもの数が少ない分、つながりが深いんや、北津守小学校！

北津守小学校は今年（2015年）10月25日に創立90周年を迎えます。創立時の名称は津守第三尋常小学校で1934年に久金属工場の裏側から現在の場所に校舎を移しました。戦時中の1944年には大阪市立北津守国民学校に名称が変更され、空襲で鉄筋校舎の他はすべて焼けてしまいました。終戦後の1947年に現在の大阪市立北津守小学校へと名称が変更されました。木津川に隣接していることや低地であることから、戦前には室戸台風のため校舎一棟が倒壊、1950年のジェーン台風では校舎が痛み、道具や書類が水に流され町が水に浸かり、どろ海のようになりました。その後、住民の強い要望から木津川に高潮を防ぐための堤防や水門ができ、安心して学校の運営が行われるようになりました。そして、1959年に鉄筋三階建ての校舎が建設され、1972年から74年にかけて、新校舎が建設され続け、その後に様々な整備が行われ現在に至っています。そういった経過を踏まえて、創立90周年を記念して様々な取り組みが行われる予定をしています。その中の1つの取り組みとして、創立90周年記念Tシャツが作成されることになりました。現在の情報では北津守小学校は「バーガンディ（えんじ色）」に文字や図柄は白色とのこと。また、記念冊子作成の準備も進めていると聞いています。

創立90周年を迎える北津守小学校は、生徒数が93人（7月16日現在）、大阪市内にある小学校294校中、かなりこどもが少ない小学校となっています。児童数・学級数が少ない学校について、大阪市は統廃合を積極的に進めていますが、西成区はこの春に小学校の統廃合（梅南小と津守小）、小中一貫校の新設（弘治小と萩之茶屋小と今宮小と今宮中）が行われました。北津守小学校の統廃合の話は現在のところは進んでいませんが、このままの状態が続けば閉校されることも十分に考えられます。また、北津守のまちもこの10年間、人権文化センター津守分館、延寿荘（老人福祉センター）、コーセツ市場、平和湯、北津守診療所といった施設が同和対策終了後、次々と閉鎖されました。また、植田興業跡地の「ひまわり迷路」などの一時利用、北津守グランド跡地の売却なども進めていますが、金網に囲まれた未利用地が多数残されています。

そういった地域の状況の中、北津守小学校では創意工夫された様々な取り組みが行われています。1つは「たてわり班活動」です。この活動は1年生から6年生までをひとくくりにして班をつくり、その班単位で清掃や集会など活動を行います。そういった取り組みを行うことで、従来のこどものヨコのつながりに加えタテのつながりも深まります。また、少人数における人間関係の固定化の解消にもつながります。2つめは防災の取り組みです。過去の北津守での風水害の教訓や東南海地震に備えて、西成区内でもいち早く地域や保育所と連携した防災訓練が行われました。その取り組みは現在も継続して行われており、防災への備えは万全です。その他にも、「北津守こどもカーニバル」が学校を舞台にして行われるなど、学校と地域が一体となった取り組みが数多く行われています。

今回、原稿作成にあたって学校の歴史などいろいろ勉強させていただきました。私も、もっともっと学校に関わっていきたいと思います！

レポート：寺嶋公典

（写真上）北津守小学校（大正14年頃）
（写真下）北津守こどもカーニバルの様子

［田岡秀朋］戦後70回目の8月15日。祖父が寿命近くになり、戦争の話を突然しだしたことが、逆に戦争の恐ろしさを感じさせた。この夏は平和でなく、戦争ってなんだったのか、もう一度考えてみよう。

［沖田一志］ネットで「なび」をご覧になっていたみなさん！滞っていたホームページの更新をやっと完了しました。これで、第1号から最新号までネットで公開中です。

［飯島照喜］“暑い”外は連日30度を超す猛暑。なび新編集部はそれ以上に“熱い”。熱気に圧されて“汗だく”の日々です。

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.17 ぐらん・じゅ

就労支援の現場で「インターン」が活動を開始しました！

国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」では、6名の桃山学院大学社会福祉フィールドワーク学生の受入れを始めました。桃山学院大学では社会学部社会福祉学科の1年次生が、授業の一環として地域の施設で、1年間ボランティア活動をしながら社会福祉を肌で感じて学びます。

ビッグ・アイでは彼らを「インターン」と呼び、レストラン『ぐらん・じゅ』をはじめ、ホテル清掃、フロント等で「ホテルやレストランなどサービス業における職場体験」実習生とともに「バディ」(※)として活動してもらっています。活動を通じてビッグ・アイという施設や障がいのある人への理解、就労支援についての一端を学びながら、疑問や自分なりの考えを持ち、これからの社会福祉を担う人材へと育っていって頂ければと期待しています。

文責：飯島秀司

※バディ(buddy)…相棒・友人

実習生(左)と「ビッグ・アイ」スタッフ

ぐらん・じゅ　イベント情報

ご好評につき、
今年もビアホールフェア開催！
9月30日まで
PM5：00～PM8：30
是非ご利用下さい！

レストラン　ぐらん・じゅ
国際障害者交流センター ビッグ・アイ1階
大阪府堺市南区茶山台1-8-1
7:00 ～ 21:00（ラストオーダー 20:30）
【ご予約・お問合せ】
TEL&FAX：072-290-0917

[西田吉志]今年３２歳になりましたが、「夏」に対する気持ちが１０代の頃と比べて変わってきてる気がするな…なんというのかウキウキ感？がなくて、とりあえず涼しいところを求める今日この頃

[谷口円]７月号から表紙の写真を撮影させていただいていますが…あつい！汗でカメラが水没しそうになりながら、西成の街を撮り歩いています。

いい湯かげん

公募区長をやめてはいけない

大阪市で公募区長が始まって3年が経った。巷では、橋下市長が辞任を表明した以上、公募区長も12月までの消化試合にすぎないと揶揄されている。というのも、自民党や市官僚には元の職員区長に戻したいと考えている人も多いらしく、公募区長は存続さえ危ぶまれているからであろう。ボクは、一貫して公募で非職員区長に賛成であったから、橋下市長にも公募区長にも頑張ってほしいと思っている。

ボクは、『なび』69号（2012年11月）で、臣永西成区長の①「生活保護を半減する」②「若者等失業者を公務員にする」③「西成区をきれいにする」という公募論文を紹介したが、3年経って「公約」は具現化されただろうか。振り返って、職員区長が「生活保護の半減」なんて言おうものなら、即辞任という「挑発的」な公約だったが、そうならなかったところが、公募制の良いところだった。あまりに紋切型の公約だったから、「半減」とは「地域経済に還流」させることで費用対効果を変えること。「公務員にする」とは「公共サービスを雇用産業にする」ということ。「きれいにする」とは、家庭ごみの分別回収等「環境産業でエコひいき（橋下市長の西成区をえこひいきするにかけた）」することと、臣永区長の「アイデア」を活かすと、ボクは書いた。

何よりも「西成特区構想」が日の目を見たのだから、臣永区長の実績は他の区長を先んじているように見える。はたしてそうか？西成特区構想を大方の区民が好意的に見ているのは間違いないと思うが、どこかで懐疑的でもあるのは、他ならぬ橋下市長の「えこひいき」という表現ではなかったか。つまり、西成区ではなくあいりん地区を「ひいき」しただけではないかという疑問だ。あいりん地区を「救済する」ために、西成区民の「必要を充足するまちづくり」を始めるという市長や区長からの発信は区民にそんなに届いていないのではないか。「区民の必要」とは、「福祉の経済への還流」や「公共サービスの雇用産業」それに「エコ（環境）ひいき」ということではなかったのか。「あいりんのため」が西成のためになり、「西成のため」があいりんのためになるという相乗作用が期待されていたということだ。それが、橋下市長の都構想を急ぐあまりの「西成の地名は消える」発言や関係者の怪ビラになって、「なんだ、いつもの先祖返りか？」と水を差されてしまった。

さて、「西成特区構想」を頂いた西成区はこれから、職員区長復活とともに「元の木阿弥」に戻るのか、ギアチェンジした臣永区長もしくは新しい公募区長のもとで、「西成総合区」をめざして再スタートするのか。選挙だけが民意を反映させる場とは限らない。都構想がきっかけで始めた「フォーラムにしなり」という井戸端会議の直近のテーマは「18歳選挙権」で、若い仲間も迎えて、民意を育むことにしたい。

㈱ナイス代表取締役
冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司]戦争云々もさることながら、いま本当に怖いのは、現政権が民主主義を、憲法を、私たちを蔑ろにしていること。こんな政治を許すことはできない。

[安田拓也]はじめまして！僕が西成のまちに来て、早いもので９ヶ月が立ちました。正直、まだまだ知らないことが沢山ありますが、そんな奥深いまちの冒険の１年にしたいと思います。

ある日のRON

今月の花：芙蓉（ふよう）

花言葉「繊細な美」
「しとやかな恋人」

この花は、朝咲いて夕方しぼむ1日花ですが、しとやかでやさしい印象をあたえることから、美しい女性のたとえにもちいられています。

暑い日が続き、あまり人通りがないことに、気づきました。みんな家でエアコンを入れてのんびりしてるのかな、家のない人も昼間はどこにいるのかな！陽が落ちる頃みんな、どこからともなく集まってきて、シェルターの列に並んでいます。「どこにおったん？」

（なんばひとみ）

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『待ってるよ』

夢を見た。
大きなひまわりが
たくさんたくさん咲いていた。
私はひまわりを踏まないように
走り回った。
大きなひまわりが
太陽の光をいっぱい浴びていた。
私はひまわりの
邪魔にならないように
そっとしゃがんだ。
大きなひまわりが
私に元気いっぱい笑ってくれた。
私はひまわりの素敵な笑顔を
目に焼きつけた。
目が覚めた。
ベランダでお母さんが
お花の種をまいていた。
それはひまわりの種だった。
ひまわりが、夢の中から
私に会いに来てくれたんだって
思ったよワンワン

赤井まゆみ

枝葉末節

『橋下市長という大事件　1』

hidarmakiの佐々木です。
8月の発句です。

夕焼けが地名の由来呼びおこす

当誌8月号がお手もとに届くころ、5月に施行された「大阪都構想」への住民投票からすでに2ヶ月以上を経過する。熱狂に似たあの選挙が、自分にとってどんなイベントであったのか考えてみてもいいと思うようになった。ここでは都構想もさることながら、橋下その人への印象についても述べてみたい。

大阪府市政の長として登壇し活躍してきた橋下という人は、それ以前マスコミで結構な人気者であったという。TVを持たない生活だったので、単に情報のおいてきぼりを食っていて知らなかった。政治家として登場してきたとき、わたしはずっと彼の名前を「はしした」だと思っていた。だから、知事選挙の際、周辺で「はしもと」がどうこうと話題になっていても、「はしもと」と「はしした」は別人候補者とばかり思っていて、紛らわしい名前の人がようけ出とると、全くもって認識不足がはなはだしかった。

その橋下についてはいくつかの共感があった。橋下がはしもとだと認識しだした頃、だから、府知事就任以降と思う。「大阪に原発をつくる」というアイディアをぶちかました。大阪の町衆がどんな反応をしたのか知らないが、わたしは自分たちが消費する電力だし、地産地消が当然と思っていたので、「原発を大阪に」という彼のセンスを凄いと感じ支持した。従来そんなことを言う政治家はいなかった。橋下はその後、大阪原発建設メッセージを訴えることもなく、以後封印した。わたしは口先だけのパフォーマンスだと理解していくが、彼は現在話題にのぼる事柄や情報をトピックにして、マスコミやブログなどに投げつけ、民意の反応を吟味しながら、自らの計画や政策に反映させていたのだろう。

もうひとつは大阪市職の組合つぶしを画策したことだ。これは大阪市長になったころだ。彼自身、市職には激しく攻撃されたこともあり復讐心が大いにあったと思う。市の裏金問題や、生活保護ピンハネ、高い給料、ヤミ専従などしたい放題の大阪市には、もともと多くの批判があった。わたしは労働組合（別に企業労組・公務員労組の別なく）という存在に興味なく、というよりシンパシーを感じていたにも関わらず、貧乏なわたしの生活の益どころか、企業組合から搾取まがいを受けたことがあり、組合こそは資本の手先というイメージを抱き続けている。現在、未組織労働者らの支援組合もなくはないが、当時はわたしらの暮らしに程遠く、組合員たちの組合員による組合員のための権益組織であり、社外発注先や個人下請などには低ギャラ、労働過剰を平気で強いた。給料が上がり、生活がよくなればそれが自分たちの成果だと考える組織なので、組合解体や事業の民営化などを叫ぶ橋下の考え方は新鮮だったし、わたしも復讐心で支持をしていた。

そのほか東日本震災のガレキ引き受けや、同和対策への見解、桜ノ宮高校体罰事件における教員総入替え、議員経費の公開、市内公立中学校に給食を導入など、すごく真っ当な政策で臨んでいると思っていた。ただ文楽協会への補助金削減には、文楽をたしなむ者として怒りを覚え協会にも同情した。しかし、あれ以来文楽への入場者席は、行くたびに好況を呈している。これは橋下効果の結果だ。つまりは、文楽協会として伝統に安住する部分もあったろうし、客は客でそんな問題になるまでは気にもかけぬことだった。

補助金が出る、伝統芸能だから消滅しない、そんな小市民性を橋下は批判しただけに過ぎない。お前らは真剣に文楽を守ろうとしているのか、守る努力をしているのかと。いや、わたしは橋下に好意的に過ぎるのかもしれない。橋下の市場原理オンリーな政策が、たまたま反好転しただけかもしれない。内実はよくわからない。しかし文楽は今盛況である。とりあえず協会もわたしである客たちも一定努力をして盛況させたことは事実だ。文楽存立のヒントを与えてくれた一点は大きい。

橋下は、なんでも与えられるだけではなく、自分で獲得する必要さを示した。権力側からの強権ではあったけれど、わたしはこれを評価したいと思うのだ。橋下が好き嫌いなど別次元の問題なのだ。

ただわたし自身、浪速区のアパートで死亡した生保者が残した保持金の行方が気になり、浪速区役所に問いただし、それに対しずさんな対応をした当時の女課長代理に怒ったことがあった。それがきっかけで、その後、裏金事件が発覚し世間を大きく騒がせた。ところが橋下市政になり、その課長代理が市役所福祉の上級ポストに就いたと新聞の移動欄で発見、しばし唖然とし役所のしくみに改めて絶望したことがある。この事件では橋下にはヌカ喜びを味わった。つまり、行政にとっては客である町衆に、真っ当な挨拶もできない不届き者が高給を食むという構図で、やはり橋下人事も官僚論理に貫かれていた。それは刺青のある職員を云々する以上に不当なことなのだ。

hidarimaki

西成カレンダー

「まなぶ？あそぶ？夏の西成」編

夏の終わりの風物詩「地蔵盆」

探してみよう！自分達の住む地域の地蔵盆！

西成区地蔵盆研究会がまとめた「西成区お地蔵さん名鑑」によると、区内にはなんと１６０を超えるお地蔵さんがあるようです。すべての場所で地蔵盆があるわけではないでしょうが、自分の住む地域の地蔵盆を探しに行きませんか？
（名鑑によると、西成地区内でも旭に９か所、北津守に１０か所、鶴見橋に１４か所、出城に３か所、長橋に４か所あるそうです。）

日時：８月２３日（日）２４日（月）
場所：西成区内あちこち

みんなで色々考えようよ！

第１３回フォーラムにしなり「ギリシャの国について（仮）」

ＥＵ離脱か残留か。７月はギリシャの一挙手一投足が注目されました。「ギリシャは何たる国か！！」という声もあれば、時の人ピケティは「ギリシャの債務減免」の公開書簡をドイツのメルケル首相あてに送りました。今回は「ギリシャ」についてみんなで語り合います。

日時：８月２６日（水）午後６時３０分～
場所：市民交流センターにしなり
参加費：無料

夏の恒例行事

西成区北西部まちづくり推進納涼「盆踊り大会」

日時：８月７日（金）８日（土）
午後７時～１０時　※小雨決行
場所：長橋３公園
主催：西成区北西部まちづくり推進納涼盆踊り大会実行委員会
TEL：０６-６５６１-８８００

あとがき

「なび」は新聞ではありませんが、小さいころの夢は新聞記者だったので、自分の原稿がニュースに記載されとてもうれしいです。が、原稿を書き始めると、要点をうまくまとめねば…、気の利いたことを書かねば…というプレッシャーで、これは大変だということを実感しています。そんな中、「なび」ファンの方から、心が温まるお手紙をいただきました。お返事は紙面の充実でと心に誓いました！　（寺嶋）

なび８月号（vol.102）
発行日：2015年８月１日（創刊日：2007年１月１日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 冨田一幸
印刷：有限会社前山企広
住所：大阪市西成区長橋 3-6-33　電話：06-6563-1156
E-mail：info@nice.ne.jp
url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：寺嶋公典
編集：飯島照喜、沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、西田吉志、安田拓也、若松司（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki　デザイン：谷口円